

# くすのき



西合志第一小学校  
学校だより 第20号  
文責 校長 西村羊治  
令和6年6月7日

校訓「かしこく やさしく たくましく そしてふるさとを愛する子どもに」

## 人格の完成

右の写真は6月3日(月)朝の1年生の姿勢です。担任の先生の「姿勢をきちんとしましょう。」の声かけで、背筋を伸ばして手を膝の上におくことの意識をしています。担任の指導と本人の意識で姿勢は変わります。それを継続していくことで、大切なことが身についていきます。逆に言うと、それをしなければ身につけません。

私は、小学校3年生から中学校3年生までを担任したことがあります。残念ながら小学1・2年生はありません。小学1年生でも「相手の立場に立てる」児童がいます。中学3年でも「相手の立場に立てない」生徒がいます。

それは、それまで教師を含めた大人がどのような関わりをしてきたのかが、大きく影響していると思います。環境が人を育てると言います。教師や親は児童生徒にとっての人的な大きな環境の一つです。私は小中学校での経験上、体の小さな小学1年生も体の大きな中学3年生も同じ発展途上の大切な子どもだと認識しています。年齢が違おうが、一人の人格を持った人間であるし、大切な存在なのです。また、生い立ちも違おうしそれぞれの個性もあるのです。小学1年生だからとか、中学3年だからとかで判断するのではなく、それぞれの児童生徒の実態を把握して信頼関係を築き、その子に必要な関わりをしていくことが、教師として大切なことではないかと思います。だから、かわいくて小さな小学1年生だから、これぐらいいいだろう、これぐらい指導する必要はないだろうではなく、小学1年生だから身に付けなければならないことは、教師として丁寧にわかりやすく、納得させて身に付けさせていくことが大切だと思います。中学3年だからできるだろうではなく、実態をきちんと把握して、必要な指導は根気負けせず愛情を持って関わっていくことも必要だと考えます。そして、人格の完成を目指していく使命を続けていきたいものです。家庭教育もとても大切です。



正しい姿勢を意識する1年生



正しい姿勢を意識する1年生

## 相手の立場に立てるチーム

先日、人事評価に係る職員との面談を行いました。職員が自分で立てた目標の確認も大切ですが、私は先生方に、子どもはもちろん学校全体のことや職員関係のことについても聞き取ります。ある先生から、「いろいろな仕事があり大変ですが、すべての先生がとても協力的で一緒に仕事をしてくださり、とてもありがたいです。」とのことを聞きました。西合志第一小学校の先生方が、お互いのことを思い、協力する姿をよく見ます。各先生方が「相手の立場に立ち」自分の時間を使って協力する姿です。

このような職員集団なら、それを見ている子ども達も協力することの大切さや温かさを感じ、やさしい心を持った児童に成長していくことでしょう。



職員が協力して引いたライン